

## 注意点1

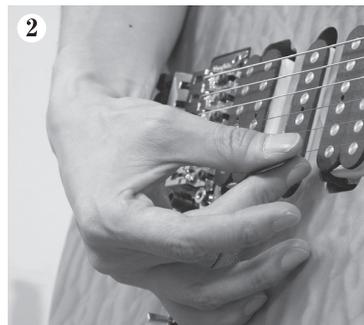


## 2つのトレモロ奏法を試してみよう

トレモロ・ピッキングは、ギター以外にも大正琴やマンドリンなどでも弾かれるオーソドックスなテクニックだ。1本の弦を高速オルタネイト・ピッキングするのだが、テンポと音質を均一にして弾くことが大切。フォームは普通のピッキングと同じものが一般的で、少し手首を柔らかく使って弾くと良いだろう(写真①)。この他に手首を90度近く曲げ、1弦よりも下の位置に手首を置き、横からピッキングを行なうフォームもある(写真②)。こちらはヴァン・ヘイレンが始めた奏法で、ハミングバード奏法と呼ばれており、ピックを中指と親指で持つことが大きなポイントになる。どちらにしても手首のスナップを利かせることが共通しているが、実際に弾いてみて、弾きやすい方を選んでもらいたい。



1 通常のピッキングと同じフォーム。ただし、手首を柔らかく使えるようにするために、手首を少し浮かせるようにしよう。



2 手首を曲げて弾くハミングバード奏法。ピックを持つ指は親指と中指。

## 注意点2



## 手首の力を抜くことが高速ピッキングの鍵

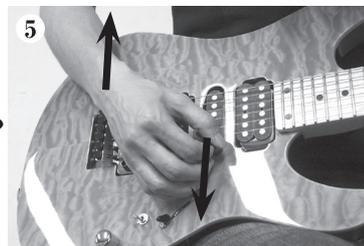
このフレーズは、最後までトレモロをキープさせることが大切だ。基本的には、手首のフォームと動きを一定に保つようにすれば良い。そのために肘を張った状態にしないことが重要だ(写真③)。肘が張ってしまうと、手首のスナップが利かないどころか疲れてしまう。フォームが固まったら、手首のスナップを利かせるように弾こう。手首から先を振るというよりは手首自体を横に振る感じで弾くと良い(写真④&⑤)。こうすることで小刻みな高速ピッキングを行なうことができる。この時に手首に力を入れてはいけない。手首には力を入れず腕を振ったら自然にピックが振れたという感覚を持つと良いだろう。力まず弾くことが大切である。



3 このように肘を張った状態では、トレモロ奏法は弾けない。



4 肘を張らずに手首のスナップを使って弾く。



5 リラックスして弾くことで、音粒を揃えることもできる。

## ~コラム16~

## 地獄の戯れ言

速さと正確性を追求したトレモロ・ピッキングの究極形と言えば、ポール・ギルバートのドリル奏法が挙げられるだろう。このドリル奏法は、「ダディ、ブラザー、ラバー、リトル・ボーイ」という楽曲の中で聴くことができるが、これは奏法と言っても人力ではなく、その名のとおり電動ドリルを使うことによって行なわれているのだ。彼は、電動ドリルの先に3枚のピックを扇風機の羽根のように広げて固定し、ドリルを動かすことでトレモロ・ピッキングを行なっていた。電動モーターを使用しているため、テンポも一定にキープできるし、正確無比なピッキングができる! ……とところがどっこい、そうは楽に

## ある意味反則!? 電力ドリル奏法

かないのだ。学生時代に筆者は、職人をオヤジに持つ友達から電動ドリルをこっそり拝借し、「ポール風電動トレモロ・マシン」を作って試してみたことがあった。ついでに、仲間のベーシストも「ビリー・シーン風電動トレモロ・マシン」を製作し、2人で弾いたのだが、これがけっこう難しい。ドリルのピッキングがあまりにも力強いので、逆に弦からハジき飛ばされて、うまくピッキングできないのだ。その後、ベーシストと2人でかなりの練習を積み、ライブに臨んだのだが、その猛練習のおかげで観客にはかなりウケた。読者のみんなも、ポールの音源をチェックし、興味があったら挑戦してもらいたい。



## MR.BIG

「ダディ、ブラザー、ラバー、リトルボーイ」  
from「リオン・イントゥ・イット」

1991年にリリースされたMR.BIGの2ndアルバム。彼らの演奏技術だけでなく、楽曲の質の高さも証明した究極の1枚だ。